

成果報告会・シンポジウム

「持続可能な多世代共創社会のデザイン」をめざして
～世代間をつなぎ社会問題を解決する活動をどう継続的に展開するか?～

2016 年度

北翔大学北方圏学術情報センターポルトでは、2016 年度より「持続可能な多世代共創社会のデザイン」の構築をめざして共同研究プロジェクトを立ち上げました。「持続可能な多世代共創社会のデザイン」とは、政府系研究機構の社会技術研究開発センターが推進する研究領域で、私たちもその問題意識に則り独自に研究活動を展開しつつあります。

私たちは「さまざまな社会問題に対して、市民一人ひとりがその立場に応じて、当事者意識をもって相応に関わり、さまざまな社会課題の解決に向けて参画していく意識を醸成して、多世代共創社会を実現していくことが必要である」と認識し、「世代間をつなぎ社会問題を解決していく活動のあり方」を模索しています。

2016 年度は、本格的な共同研究を開始する準備段階との位置づけ、活動してきました。

そこでこの度、今年度の研究 / 実践の成果を発表すると同時に、来年度に向けての展望を図る成果報告会を企画しました。

2017 年 3 月 26 日 13:30 ～ 16:30

会場：北翔大学北方圏学術情報センターポルトホール

13:30 ～ 14:45 【第 1 部】研究メンバーによる成果報告

入場無料

サブテーマ 1 (具体的な社会問題、用語等、基礎研究を中心に)

- ・子どもの貧困問題から社会連動感について考える ～文献および事例調査から～ (飯田)
- ・地域再生の担い手育成を目指す教育的活動・催しに関する調査研究 (菊地)
- ・社会課題の直感的理解のための情報提示方法・展示方法に関する調査研究 (小室)
- ・産学公民をつなぐキャリアマネジメントの研究 (田口)
- ・多様な子どもを理解する教育を考える (丸岡)

サブテーマ 2 (イベントの開催など、実践を中心に)

- ・美術鑑賞を通して醸成される共感性についての研究 (山崎・林)
- ・多世代連携に関わる体験イベント・講座プログラムの開発 (村松・富田・大信田)

13:45 ～ 15:00 休憩

15:00 ～ 16:30 【第 2 部】パネルディスカッション

- ・「持続可能な多世代共創社会のデザイン」をめざして
～世代間をつなぎ社会問題を解決する活動をどう展開するか?～

司会 小室 晴陽 北方圏学術情報センター長
芸術学科 教授

パネラー (予定：あいうえお順)

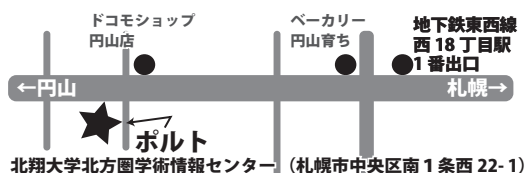
飯田 昭人	心理カウンセリング学科 准教授
大信田 静子	芸術学科 准教授
菊地 達夫	こども学科 教授
田口 智子	ライフデザイン学科 教授
富田 玲子	芸術学科 教授
林 亨	芸術学科 教授
丸岡 里香	教育学科 准教授
村松 幹男	芸術学科 教授

同時開催 成果発表
(資料配布・パネル展示)

- ・発達障害児に対する子育て支援の多世代連携における事例的検討 (石塚)
- ・健康フェアを介した多世代交流・共創による集団的健康増進と持続的連携の構築 (沖田)
- ・ソーシャルキャピタルに関連する地域の市民活動とその参加意欲に関する基礎的な研究 (佐々木 (浩))
- ・ふるさと札幌・江別の誇りを見詰める (水野・他)

3 月 25 日 (14:30 ～ 17:00) 前日ワークショップ

ポルト 5 階会議室 B にて、「多世代共創を育むための『ポルトのサロン化』」、「イベントの有効性もしくは有効なイベントの実現について」をテーマに、前日ワークショップ (ブレインストーミング等) も行う予定です。興味・関心のある方は是非参加してください。



主催／北翔大学北方圏学術情報センターPORTO(ポルト)
問い合わせ先／〒064-0801 札幌市中央区南1条西22丁目1-1

電話：011-618-7711 FAX:011-618-7712



北翔大学 北翔大学短期大学部

パネルディスカッション

「持続可能な多世代共創社会のデザイン」をめざして
～世代間をつなぎ社会問題を解決する活動をどう継続的に展開するか～

研究の背景（問題意識）について

地域が抱える社会課題の解決には、関係し合う様々な立場の人々がその課題を“自分事”し、“私達事”として捉えて、関わり合いながら協働して取り組んでいくことが重要ではないか、そのような取り組みが、「社会連動感」を醸成し、持続性を担保するのではないかと考えています。

また、ある社会課題の背景には、少子高齢化、経済の不安定化、家族関係やコミュニティの変容など、さまざまな要因が絡み合っていることがあります。そうした課題の解決には、特定分野の専門家だけではなく、いくつかの分野の人々が連携して、統合的に解決しようとする姿勢が有効ではないかと考えています。言い換えれば、コラボレーティブな関わりを持つことによって、それぞれの問題に共通する“軸”のようなものが見えてきたり、互いの知見が他の問題解決に寄与したり、新たな知見が創出したりできるのではないかと考えています。

研究活動の可能性（優位性）について

北翔大学には、教育、福祉、芸術、心理、健康、スポーツなど様々な分野を専門とする教員がそろっています。また、地域課題を解決していくための実験空間になりうる北翔大学北方圏学術情報センター「ポルト」という魅力ある「場」も有しています。

テーマ1 多世代共創を育むための 「ポルトのサロン化」

上記問題意識や優位性を踏まえた上での多世代共創を育む「場」としての「ポルトのサロン化」について、様々な専門分野の方々とともに考えてみます。

視点（切り口）

- ・多様な人々が共創し地域の課題を解決していく仕組みづくりのきっかけとして、「ポルトのサロン化」は有益か？
- ・有益だと思ふとき、
 - ☞ポルトはどのような「サロン（場）」であるべきか？
 - ☞その方向性は？
 - ☞具体的イメージ、現実化のためのアイデア、乗り越えるべき課題 etc...

テーマ2 イベントの有効性 もしくは有効なイベントの実現について

北翔大学では、外部団体との様々な連携イベントを開催してきています。それらの知見から見えてくるイベントの有効性や共通する問題点、多世代共創を育む実践活動について考えます。

視点（切り口）

- ・イベントの有効性とは？ ※体験＝自分事化
 - ☞社会問題解決におけるイベントの有効性は？
 - ☞教育におけるイベントの有効性は？
- ・「お金がない」、「マンパワーがない」、「人が来ない」
ない、ない、ないの解決法
 - ☞持続性＝ビジネス（経済的にペイするか）
 - ☞持続性＝モチベーションの維持
 - ☞情報宣伝の方法論 etc...
- ・多世代共創を育むイベントとは？

今回の「成果報告会・シンポジウム」は、2016年度北翔大学北方圏学術情報センターポルト共同研究プロジェクトAの「成果報告会」であると同時に来年度に向けての勉強会でもあります。第2部のシンポジウムでは、フロアーの方々の積極的なご発言を歓迎いたします。

また、前日25日(14:30～17:00)には、ポルト5階会議室Bにて、上記テーマに関する前日ワークショップ(ブレインストーミング等)も行う予定です。興味・関心のある方は是非参加してください。